

## 新潟市子ども・子育て会議の開催状況

## 本体会議

第 1 回 新潟市子ども・子育て会議	
開催日	平成 2 5 年 9 月 4 日 (水)
議事	(1)会長指名・副会長選出 (2)子ども・子育て支援新制度について (3)ニーズ調査について
第 2 回 新潟市子ども・子育て会議	
開催日	平成 2 5 年 1 0 月 1 日 (火)
議事	(1)部会長及び臨時委員の指名 (2)ニーズ調査について (3)「子ども・子育て新制度」に対する意見・質問
第 3 回 新潟市子ども・子育て会議	
開催日	平成 2 6 年 2 月 7 日 (金)
議事	(1)部会の開催状況について (2)ニーズ調査の集計結果(速報)について (3)新潟市子ども・子育て支援事業計画の基本理念について

## 幼保部会

第 1 回 新潟市子ども・子育て会議 幼保部会	
開催日	平成 2 5 年 1 1 月 2 2 日 (金)
議事	幼保部会における検討事項等の概要について
主な 委員意見	○現制度では勤務時間が短く保育園に入園できない人を、新制度では入園できるようにしてほしい。 ○延長保育や一時預かりの利用時間を広げることは、子どもにとってはよいことなのか。
第 2 回 新潟市子ども・子育て会議 幼保部会	
開催日	平成 2 6 年 3 月 1 8 日 (火)
議事	(1)ニーズ調査の概要について (2)子ども・子育て支援新制度の周知・広報について (3)幼保部会関連条例等について
主な 委員意見	○保護者への広報をしっかりとしてほしい。福祉寄りのシステムなので、幼稚園、幼稚園の保護者に対する説明をしっかりとしてほしい。 ○新潟市は給食を自園調理としているが、認定こども園に移行する際、幼稚園は調理室をつくるのがネックになっている。
第 3 回 新潟市子ども・子育て会議 幼保部会	
開催日	平成 2 6 年 5 月 2 9 日 (木)
議事	幼保部会関係条例案について

## 放課後児童クラブ検討部会

第1回 新潟市子ども・子育て会議 放課後児童クラブ検討部会	
開催日	平成25年10月4日(金)
議事	(1)放課後児童クラブの現状について (2)新潟市放課後児童クラブのあり方懇談会内容報告 (3)国の専門委員会の検討内容
主な委員意見	<p>○ひまわりクラブは地域と一体化していないように感じる。地域とつながる仕組みを考えていかなければならない。</p> <p>○高学年の受け入れには指導員の量と質が必要となる。資格を問わない臨時職員でも研修を行うなど質を高める必要がある。</p> <p>○子どもと保護者の家庭での関係が、愛情でしっかりと結ばれたうえで、地域や学校での生活が成り立つ。要望があるからといって、ひまわりクラブの安易な時間延長にならないよう、慎重に検討しなければならない。</p> <p>○子どもたちが放課後の環境条件の中でいかに育っていくかに焦点を当て、子どもの育ちをどのように図っていくかという観点で、新潟市の放課後児童クラブの条例に定める基準を今後議論していきたい。</p>
第2回 新潟市子ども・子育て会議 放課後児童クラブ検討部会	
開催日	平成25年11月21日(木)
議事	(1)第1回放課後児童クラブ検討部会の振り返り (2)国の専門委員会の検討内容と新潟市の現状と方向性について
主な委員意見	<p>○高学年受入れや障がい児の対応など、指導員の員数が足りるか心配。</p> <p>○きちんと生活するスペースや静養するスペースを確保してあげないと、子どもたちが安心して過ごせる場所や、魅力がある場所にならない。</p> <p>○高学年受入れに際し、人数の溢れているクラブの施設整備について、早めに手を打つべきである。</p>
第3回 新潟市子ども・子育て会議 放課後児童クラブ検討部会	
開催日	平成26年1月30日(木)
議事	国の専門委員会報告書と新潟市の現状と方向性について
主な委員意見	<p>○市の指定管理者が変わっても、基準が変わらないよう、必要な部分は条例で定める必要がある。</p> <p>○保育園の閉所時間との30分の差は大きい。保育園並の開所時間は必要。</p> <p>○ふれあいスクールや児童館、地域の子が使える社会資源を生かし、各々が機能を果たしたうえで、連携していくべき。</p>
第4回 新潟市子ども・子育て会議 放課後児童クラブ検討部会	
開催日	平成26年3月28日(金)
議事	国の省令案と新潟市の現状と方向性について

主な 委員意見	<p>○子どもの成長に必要な広さ、スペースを確保しなければならない。</p> <p>○利用定員が設けられ入会基準がきつくなると、待機児童がでる恐れがあり、不適切な利用申し込みが懸念される。柔軟な対応をして欲しい。</p> <p>○利用定員を設定するとメリットとデメリットがある。待機児童ゼロありきでいくと、子どもの環境に問題が出てくる。</p> <p>○国の基準案の職員の員数は、新潟市の現況のひまわりクラブよりも良くなっている。この通り確保できるかということが課題。</p> <p>○子どもの育ちを考えるとある程度のレベルの人材確保が必要。人材が確保できないと質の高いクラブにならない。</p> <p>○指導員を育成し、指導員不足を解消できる仕組みが必要ではないか。</p> <p>○月1回の避難訓練、研修、一定レベルの状態を保つことが必要。</p> <p>○保護者の全てのニーズを満たすことが必ずしも良いこととは言えない。時間延長すれば、子どもと保護者の関係が希薄になってしまう。</p> <p>○時間延長には、帰宅時の子どもの安全への配慮も必要となってくる。</p> <p>○国の基準にも根拠があり、市の実情に合わないとなれば、精査し、根拠を示して、条例案を示してほしい。</p>
<b>第5回 新潟市子ども・子育て会議 放課後児童クラブ検討部会</b>	
開催日	平成26年5月23日(金)
議事	新潟市の放課後児童クラブの基準について

## 地域ネットワーク部会

<b>第1回 新潟市子ども・子育て会議 地域ネットワーク部会</b>	
開催日	平成25年11月14日(木)
議事	新潟市における「地域子ども・子育て支援事業」について
主な 委員意見	<p>○乳児家庭全戸訪問事業において、虐待リスクの端緒を発見したケースはあるか。養育支援訪問事業の役割も担う位置づけにするのであれば、そのような視点も必要ではないか。</p> <p>○ファミリー・サポート・センター事業で、登録会員数を増加させるため、登録窓口の増設や料金などの面でも、より使いやすく工夫していく必要があるのではないか。</p>
<b>第2回 新潟市子ども・子育て会議 地域ネットワーク部会</b>	
開催日	平成25年12月26日(木)
議事	新潟市における「地域子ども・子育て支援事業」の課題の分析
主な 委員意見	<p>○利用者支援事業は、単に相談員を配置して一般的な情報提供をすればいいものではない。どれをどのように利用すればいいのか、わかりやすく伝えられるようにすることが必要ではないか。</p> <p>○仕事と家庭生活の両立について、例えば子どもが病気になったときなど、速やかに休暇がとれるような環境についてもっと広く・具体的に周知・啓発すべきである。</p>
<b>第3回 新潟市子ども・子育て会議 地域ネットワーク部会</b>	
開催日	平成26年2月14日(金)

議事	新潟市における「地域子ども・子育て支援事業」の課題のとりまとめ
主な 委員意見	<p>○ファミリー・サポート・センターの会員増加や病児保育室の整備については、一律に増加させればいいというものではなく、各区などの実情やニーズをよく把握・分析して、必要なところに適切な量を整備するようにすべきである。</p> <p>○障がい児など特別の配慮が必要な子どもへの支援については、保育士や学校の教員など、支援するスタッフへの支援（専門的な知識やスキルを身につける研修や各機関の連携など）も充実させるべきである。</p> <p>○児童虐待防止の観点から、若年妊娠への対策として、医師など専門家による中・高生への性教育の実施を検討すべきである。</p>